

音楽科学習指導案

令和元年9月20日金曜日

第5校時1年B組39名(音楽教室)

指導者 杉山志穂

1 題材名 思いや意図をもち、表現の工夫をしよう

教材名 混声三部合唱 『ヴルタヴァ (モルダウ)』による「河の歌」

スメタナ作曲 林 光／作詞・編曲

2 題材設定の理由

<題材について>

本題材は、平成29年告示の学習指導要領の表現Aア「歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること」を身に付けさせるものである。平成20年告示の学習指導要領には表現Aア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」と示されている。

スメタナが「ヴルタヴァ (モルダウ)」を作曲した1874年当時のチェコはオーストリア帝国の支配下であり、母国語を使用することさえも禁止されていた。このような圧政下で、人々は愛国心をもち、独立を強く願うようになった。スメタナはこうした願いを音楽に託し、祖国への思いに満ちた作品を世に送り続けた。原曲の舞台となった「ヴルタヴァ川」は、現在のチェコとドイツを流れる川である。またこの曲は、交響詩であり、物語や情景などをオーケストラによって演奏されている。①ヴルタヴァの二つの源流 ②森の狩猟 ③農民の結婚式 ④月の光、水の精の踊り ⑤聖ヨハネの急流 ⑥幅広く流れるヴルタヴァ ⑦ビシェフラトの動機という7つの部分からなり、曲が情景を鮮明に表している。

本教材は、連作交響詩「我が祖国」全6曲の2曲目「ヴルタヴァ (モルダウ)」を編曲した合唱曲である。原曲に近く、楽譜には音楽記号が書かれていないため、曲の背景や作者の心情から曲に対する自分の思いや意図をもつことができ、曲にふさわしい表現を工夫させるのに適している曲であると考えられる。

<学習者について>

学習者は、校歌や発声練習を通して、歌声作りを行ってきた。前期には校歌を1人で歌う公開実技テストを行った。テストに向けて自主的に練習し、積極的に声を出す姿が見られた。しかし、曲の背景や歌詞からどのように歌いたいのか思いや意図をもち、交流し共有し歌った経験は乏しい。

<指導・「問い」の工夫について>

本教材を合唱コンクールの課題曲に設定しており、導入部では合唱コンクールへの思いを共有させ、意欲を高めたり、昨年度のクラス合唱を聴かせ、強弱や音楽記号など表現の違いによって伝わり方が異なることに気づかせたりする（「問い」の工夫Ⅰ）。その上で、自分たちは「河の歌」の歌詞の内容や曲想から解釈したことをどのような思いや意図をもって表現を工夫していくのかを考えさせる。

楽譜に音楽記号を付け「歌い方メニュー」（柔らかく、威厳をもってなどいろいろな歌い方を一覧にしたもの）を用い、それをもとに実際に練習する創意工夫の過程の中で、曲の背景と作者の心情、曲想と歌詞の内容との関わりに関する新たな知識を得たり、これまで身に付けた発声などを生かしながら、思いや意図を深めたりする（「問い」の工夫Ⅱ）。またその際、新たな思いや意図をもつことも考えられる。歌唱活動では、このように思いや意図をもつ過程を重視したい。

3 題材の目標

曲の背景や作者の心情から、どのように歌いたいかという曲に対する自分の思いや意図をもち交流し、音楽記号や「歌い方メニュー」を用いて歌唱表現を考え、試行錯誤しながら練習する過程を通して、曲にふさわしい表現に近づけていくことができる。

4 題材の評価規準

ア. 音楽への関心・意欲・態度	イ. 音楽表現の創意工夫	ウ. 表現の技能
①正確な音程, リズムに関心をもち, 歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 [観察] ②歌詞の内容(歌詞の言葉の意味, 歌詞が表す情景や心情, 歌詞の成立の背景など)や曲想に関心を持ち, 音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 [観察・ワークシート]	①音色, リズム, 旋律の働きを知覚し, それらが生み出す曲想の美しさを感じ取りどのように歌うかについて思いや意図をもっている。 [観察(パート練習)・ワークシート] ②歌詞の内容や曲のもっている特徴を味わい, 自己のイメージを生かして曲にふさわしい歌唱表現を工夫している。 [発表・ワークシート]	①正確な音程やリズムで歌い, 声部の役割や全体の響きを感じ合唱することができる。 [観察・合唱] ②歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声, 表情, 強弱や抑揚, などを身に付けて歌っている。 [観察(パート練習・合唱)]

5 題材指導計画(本時5/8時間)

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 題材のめあて 音楽記号や「歌い方メニュー」などを用いて, 歌詞の内容や曲の背景・作者の心情が伝わるように表現の工夫をしよう </div>		
1	○合唱への思いを共有する。昨年度の演奏を聴く。曲を知り, 音取りをする。 ○パートごとに音取り, 全体で合唱をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な音程, 音楽記号や拍, テンポに気を付けながらパートごとに音取りをさせる。 ・他パートの音を聴きながら, ハーモニーを感じて合唱させる。 	ア①, ウ① ア①, ウ①
2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <「問い」の工夫Ⅰ> ・合唱コンクールへの思いをクラスで共有し意欲を高める。 ・昨年度の演奏を聴き, 音楽記号の違いによって伝わり方や表現の違いがあることに気づかせる。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <振り返り> ・合唱コンクールでは練習の成果を発揮し, 最高の歌声を届けたい。 ・音楽記号の違いで曲の雰囲気が全く違う。この曲で伝えたいことをしっかりと考えて歌いたい。 </div>	
3	○作者, 時代背景, ヴルタヴァ川について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の情勢や国の様子を伝え, 川を映像で見せることにより, 作者がこの曲に込めた思いについて考えさせる。 	ア②
4	○前半部分の音楽表現について表現を工夫して歌う。 ○後半部分の音楽表現について表現を工夫して歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時をふまえ, 思いが伝わる合唱にするための音楽表現を考える。また班で共有させ, 伝わる表現を聴き合うことにより, より深い表現の工夫を見つけ出させる。 	ア②, イ②
5 (本時)	○クラスで音楽表現について共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで合唱するために必要な表現の工夫を共有させる。 	イ②
6	○曲を深める。繰り返し練習をし, 思いの伝わる合唱へと表現の工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・共有した表現の工夫ができるようになるため繰り返し練習をさせる。 	イ①, ウ①
7 ・ 8	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <「問い」の工夫Ⅱ> ・楽譜に音楽記号を付け, 「歌い方メニュー」を活用し, 思いの伝わる合唱にするため練習を重ねる。 班で歌い聴き合う。 録音して聴いてみる。 原曲をもう一度聴く。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <振り返り> ・音楽記号の中にはもっと細かい表現が隠れている。曲をしっかり知ることによって, より一層深い表現を考え, 思いの伝わる合唱にするために練習をしていきたいと思った。 ・互いに聴き合うことで思っていた考えを歌として伝えることの難しさが分かった。他の学習者からアドバイスをもらい何度も練習するとだんだんと伝わるようになった。 </div>	ウ②

6 本時の指導

- (1) 題材 思いや意図をもち、表現の工夫をしよう
- (2) ねらい 歌詞の情景や曲の背景、作者の心情を感じ取り、音楽記号や「歌い方メニュー」を用いて歌い方を考えさせる活動を通して、どのように歌いたいかわき思いや意図をもち、表現を工夫することができるようにする。
- (3) 本時における「問い」の工夫
自分たちの思いや意図が伝わる演奏にするために、「歌い方メニュー」を活用し、班で聴き合いながら練習を重ねることで表現の工夫を深めさせる。

(4) 展開

学 習 活 動	時	指 導	期待される学習者の反応	評価 ・ 備考
1. 発声練習をする。	5	○「河の歌」合唱をさせる。	○積極的に歌おうとしている。	
めあて：歌詞の内容や曲の背景、作者の心情が伝わるような音楽記号を考え表現の工夫をしよう				
2. 本時の流れとめあてを確認する。	3	○前時までを振り返り、本時で考えを交流し、実際に歌って表現をする部分を伝えさせる。		
聴き手に思いを伝えるために、どのような表現の工夫をするのか。				
3. 個人の考えを班で交流し、どのように歌いたいかわき考えを共有する。	15	○5 6小節～ 前時に個人で考えた音楽記号を班で交流し、曲のもつ世界観をより効果的に伝えるために、自分たちはどのように歌いたいかわきを共有させる。 音楽記号のみならず、「歌い方メニュー」を用いて考えさせる。	○自分で考えた意見を相手にしっかりと伝えようとしている。 ○他の学習者の意見に共感したり、質問したりしながら聞くことができている。 ○意見を交流しながら、共有し、班の意見を定めることができている。 ○資料や教科書等を使いながら、自分たちのイメージを伝えるための工夫を考えることができる。	ア② ・ワークシート
4. 班で練習をする。	10	○思いが伝わるように班で聴き合い試行錯誤しながら練習させる。	○班の中で聴き合いながら歌うことで、試行錯誤しながら表現を深めることができる。	イ② ・ワークシート ・ホワイトボード
5. 全体で交流する。	10	○班で練習したことを全体で歌う。どのような思いを伝えたいのかについても述べさせる。	○思いを伝えるために練習の成果を精一杯発揮しようとしている。	

6. 本時を振り返る。	7 ○交流して気づいたことや感じたことを書かせる。 ○聴いている人は、思いが伝わってきたのか、伝わるためにどのようなことが必要か発表させる。 ○次時ではクラスでイメージを共有させ、表現の工夫をしていくことを伝える。	○思いを伝えることの大切さや難しさについて考え、これからどのような合唱にしていきたいか、どのような練習や工夫が必要かについて考えをもっている。	
-------------	--	---	--

期待される振り返り

- ・強弱をつけることで、曲が生き生きしていき、思いも伝わると思う。
- ・「春がくる」は祖国の繁栄を祈る気持ちも込められていると思うので、力強く明るいfで歌いたい。
- ・思いを相手に伝えるのはとても難しいが、何度も繰り返し練習をしてできるようになりたい。
- ・川の流れる様子と作者の思いをうまく伝えるために強弱や音楽記号はとても大切だと感じた。
- ・他の学習者の歌を聴くと、自分の考えと少し違うところがあった。表現は様々でどれも良いと思う。しかし合唱なので、共有させていくことが大切だと思う。

(5) 板書計画

<p>「河の歌」～ヴルタヴァ（モルダウ）～</p> <p>めあて：歌詞や内容や曲の背景，作者の心情が伝わるような音楽記号を考え表現の工夫をしよう</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="124 1229 507 1545">作者の思い</td> <td data-bbox="539 1229 971 1368">歌い方メニューの例</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="539 1375 971 1545">音楽記号の例</td> </tr> </table>	作者の思い	歌い方メニューの例		音楽記号の例	<p>スクリーン</p> <p>各班で書きこんだ楽譜</p>
作者の思い	歌い方メニューの例				
	音楽記号の例				

題材構想メモ

題材「 思いや意図をもち、表現の工夫をしよう 」

①単元の目標は何か（資質・能力）

曲の背景や作者の心情から、どのように歌いたいかという曲に対する自分の思いや意図をもち交流し、音楽記号などを用いて歌唱表現を考え、試行錯誤しながら練習する過程を通して、曲にふさわしい表現に近づけていくことができる。

④問題意識を持たせるために、どのような導入を図るか（③を届けるために）

本教材を合唱コンクールの課題曲に設定しており、導入部では合唱コンクールへの思いを共有させ、意欲を高めたり、昨年度のクラス合唱を聴かせ、強弱や音楽記号など表現の違いによって伝わり方が異なることに気づかせたりする。

「問い」の工夫Ⅰ

合唱コンクールへの思いをクラスで共有し意欲を高める。
昨年度の演奏を聴き、音楽記号の違いによって伝わり方や表現の違いがあることに気づかせる。

⑥使える資料は何か。どこで使うか。

教科書・資料集
歌い方メニュー
(昨年度作成)

③どのようなめあて、課題にするか (各教科の見方・考え方が働くもの)

歌詞の内容や曲の背景、作者の心情が伝わるような音楽記号を考え表現の工夫をしよう

⑤どんな追及活動を行わせるか（言語活動含む）

歌いたいイメージに近づけるための表現技法を、音楽記号のみならず「歌い方メニュー」を用いて考えさせる。
聴き手に伝わるように、班で聴き合い試行錯誤しながら練習させる。

「問い」の工夫Ⅱ

楽譜に音楽記号を付け、「歌い方メニュー」を活用し、思いの伝わる合唱にするため、聴き合いながら練習を重ねる。

②単元の最後に理解させたいこと、発言させたいことは何か (単元のゴール+振り返りの視点)

どのように歌いたいかという曲に対する自分の思いや意図をもち、音楽記号や「歌い方メニュー」を用いて班で聴き合いながら音楽表現を深めていくことができたか。
思いを伝えることの大切さや難しさについて考え、これからどのような合唱にしていきたいか、どのような練習や工夫が必要かについて考えをもっているか。

⑦まとめの表現活動をどうするか

10月22日に合唱コンクールで発表をする